

Ⅱ 魅力ある県立学校づくりの推進

1 普通科及び普通系専門学科・コース

(1) 普通科

現在、能力・適性、進路希望などの多様な生徒が高校に進学していますが、その多くは普通科に入学しています。そうした生徒の中には、大学進学や就職など明確な目的意識を持って学習に取り組む生徒がいる一方で、基礎学力が定着していない生徒や将来像が明確に描けない生徒も見られます。

また、中央教育審議会の答申『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について』では、普通科について、「進路意識や目的意識が希薄な傾向や、他の学科に比べ厳しい就職状況にある」とし、このため「キャリアを積み上げていく上で必要な知識等を教科・科目等を通じて理解させることや、体験的な学習の機会を十分提供し、これを通して自己の適性理解や将来設計の具体化、勤労観・職業観の形成・確立を図らせることが重要である」としています。

現行再編計画では、「普通科は、単独校 85 校、併置校 29 校の計 114 校あるが、統合や学科再構成により、97 校程度とする」こととし、学校の統合や学科再構成等により、単独校 74 校、他学科・他課程との併置校 29 校の計 103 校となりました。

【具体計画の方向】

- 多様な学習ニーズに対応できる総合学科のメリットを生かし、普通科からの転換により、総合学科を 3～5 校程度設置します。
- 生徒の幅広い進路選択を可能にし、個性の伸長が図れるよう、単位制を 2 校程度に導入します。
- 医師、教員、介護従事者等不足する人材の育成などを視野に入れ、社会のニーズに対応したコースを設置します。
- 普通科と併置している専門学科については、生徒募集の在り方について検討します。
- 多様な生徒が入学する実態を踏まえ、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図りながら、能力・適性に応じた教育を行うとともに、特色ある学校づくりを推進するため、地域や学校及び生徒の実態に応じて、教育課程や教育内容、指導方法の工夫・改善などを行います。

《参 考》専門学科とコース

- 専門学科
専門教育を主とする学科であり、25 単位以上の専門科目を履修する必要があります。
- コース
生徒の特性、進路等に応じ、学習計画に計画性、継続性を持たせるため、学校が独自に各教科・科目をあらかじめ配列したものです。

(2) 英語科、国際科

英語科は、専門教科「英語」の目標である、英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養うことを目指す学科です。

また、国際科は、豊かな国際感覚や実践的なコミュニケーション能力を養い、グローバルな社会に対応できる、広い国際的視野を持った人間の育成などを目標とする学科です。

現行再編計画では、国際高校の充実として「外国人子女や帰国子女の受入れの拡大を図る一方、コミュニケーション能力にたけ、外国人と協同して創造的な仕事ができ、かつ、日本文化の発信役となるような真の国際人が育成されるよう、教育内容及び方法のさらなる充実を図る」こととし、国際高校への単位制導入(H18)など、国際高校の充実を進めてきました。

また、生徒の志願状況や地域のニーズ等を踏まえ、一部の英語科を募集停止するとともに、地域バランス等を考慮して英語コースの設置などを進めてきました。

現在、普通科との併置により、英語科は3校、国際科は4校に設置されています。

【千葉県教育振興基本計画】外国語教育の充実

将来、国際的な舞台で英語を駆使して活躍できる人材の育成を目指し、小学校では英語に慣れ親しむ教育、中学校及び高等学校では総合的な英語コミュニケーション能力を育成する教育に取り組み、外国語教育の充実を図ります。

また、英語教育に関して、小・中・高等学校の連携や、英語教育に特色のある学校との連携を促進します。

【具体計画の方向】

- 既設の英語科については、社会の変化や地域のニーズ、生徒の志願状況、既設校の実態等を踏まえ、国際的な舞台で英語を駆使して活躍できる人材の育成を目指し、豊かな国際感覚を養う国際教育への転換など、必要に応じて学科の改編を行います。
- 既設の国際科については、これまで進めてきた教育課程や学校行事等の工夫、地域行事への参加、留学生との交流等の成果を踏まえ、教育内容の一層の充実を図り、グローバル社会で活躍・貢献できる真の国際人を育成します。
- 既設の英語コースについては、教育内容の充実を図るとともに、既設校の実態や生徒の志望状況等を踏まえ、必要に応じて見直しを行います。

《参 考》国際高校の充実例

○ スーパーイングリッシュランゲージハイスクール (SELHi)

文部科学省が平成14年度に開始した事業（現在は終了）です。英語教育の先進事例となるような学校づくりを推進するため、英語教育を重点的に行う高等学校等を指定し、英語教育を重視したカリキュラムの開発、大学や中学校等との効果的な連携方策等についての実践研究を実施します。

- ・成田国際高校：平成14年度～平成16年度（3年間）
- ・松戸国際高校：平成17年度～平成19年度（3年間）
- ・千葉女子高校（普通科）：平成17年度～平成19年度（3年間）

(3) 理数科

理数科は、専門教科「理数」の目標である、事象を探究する過程を通して、科学及び数学における基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解を深め、科学的、数学的に考察し表現する能力と態度を育て、創造的な能力を高めることを目指す学科であり、現在、普通科との併設により6校に設置されています。

なお、平成25年度入学生から全面実施される高等学校学習指導要領の改訂のポイントでは、教育内容の主な改善事項として、「理数教育の充実」を掲げています。

【千葉県教育振興基本計画】

- 子どもの理科・数学に関する興味・関心と知的探求心を高める取組の推進
高等学校等においては、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）など先進的な理科教育を実践することにより、将来の国際的な科学技術系人材の育成を目指します。
- 働く姿を見て触れる、キャリア教育のための体験活動の推進
千葉県が誇る最先端の技術を有する研究機関や企業・大学等と連携し、企業見学や研究者との交流会などを実施し、先端技術等に関する子どもたちの興味や関心を高めます。

【具体計画の方向】

- 将来の国際的な科学技術系人材の育成を目指し、生徒・社会のニーズや地域バランス等を踏まえ、理数科を新たに2校程度に設置します。
- 既設の理数科については、生徒の志願状況や既設校の実態等を踏まえ、教育内容の充実を図るとともに、必要に応じて学科の改編を行います。
- 大学や高等専門学校、研究機関、企業等との連携により、大学レベルの講義や産業界の先端技術に触れるなどの機会を設け、生徒の興味・関心を高めます。
そのために、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）※などを積極的に活用します。

※ スーパーサイエンスハイスクール（SSH）

文部科学省が科学技術や理科・数学教育を重点的に行う高校を指定する制度であり、理数系教育の充実を図り、未来を担う科学技術系人材を育てることをねらいとしています。

「科学への夢」「科学を楽しむ心」をはぐくみ、生徒の個性と能力を一層伸ばしていくことを目指し、大学や研究機関等と連携して魅力的なカリキュラムを開発するなど、科学技術に夢と希望を持つ、創造性豊かな人材の育成に取り組むとともに、SSH指定校を拠点校としての地域への成果の普及などを行っています。

○ 県内指定校（県立高校）

- ・ 柏高校：平成16年度～平成20年度（5年間）
平成23年度～平成27年度（5年間）
- ・ 船橋高校：平成21年度～平成25年度（5年間）
平成23年度～平成25年度（3年間）は、コアSSHに指定
- ・ 長生高校：平成22年度～平成26年度（5年間）

なお、コアSSHは、SSH指定校の理数系教育における中核としての機能の強化を図るため、文部科学省が平成22年度から行っている事業です。

(4) その他の普通系専門学科（体育科、芸術科）

体育科は、専門教科「体育」の目標である、心と体を一体としてとらえ、スポーツについての専門的な理解及び高度な技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの振興発展に寄与する資質や能力を育て、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てることを目指す学科です。

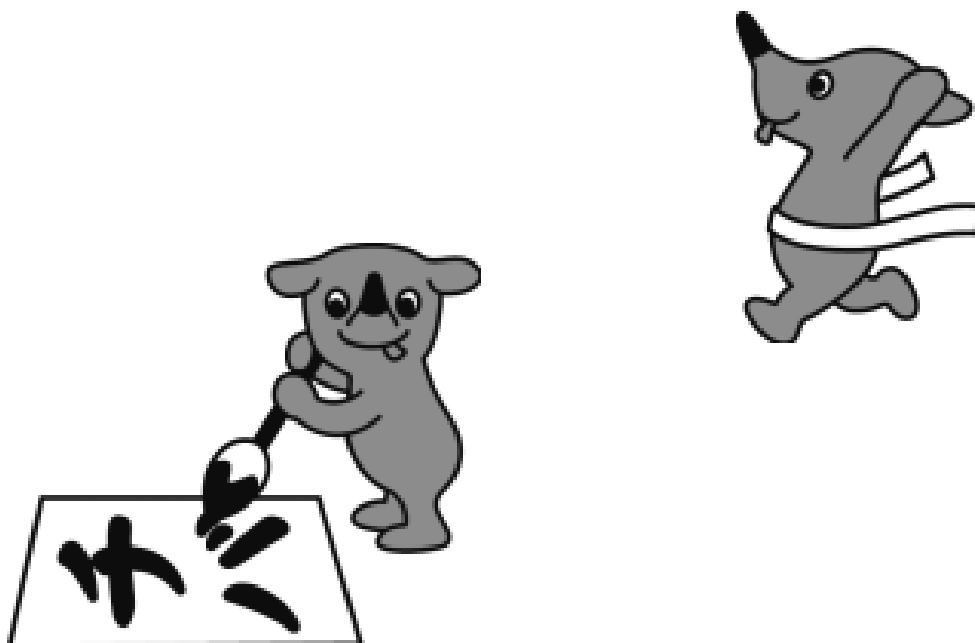
また、芸術科は、情操教育の充実を図るとともに、豊かな創造力を備え、将来、芸術分野において活躍し、文化活動の一層の活性化に資する人材の育成を目標とする学科です。

現行再編計画では、芸術科の設置について、「音楽、美術、工芸、書道の従来からある芸術科目だけでなく、演劇や古典芸能などを含めた芸術分野の中から選択して専門的に学習する「芸術科」を、2校程度に設置する」、また、普通系専門学科・コースについて、「既設の理数科、体育科、英語科等の普通系の専門学科の他に、新たに芸術系の学科を設置するなど、普通系の専門学科・コースの活性化を図る」こととし、松戸高校に芸術科を設置(H16)しました。

なお、体育科は、普通科との併置により、2校に設置されています。

【具体計画の方向】

- 現有施設・設備を有効活用しながら、体育、芸術教育の更なる充実に努めるとともに、必要に応じて系列（総合学科）やコースへの転換など、学科・コースの改編を行います。



2 職業系専門学科・コース

(1) 農業科

農業科は、専門教科「農業」の目標である、農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、農業の社会的な意義や役割について理解させるとともに、農業に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、持続的かつ安定的な農業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目指す学科です。

現行再編計画では、「農業科設置校は、単独校4校、他学科併置校11校の計15校あるが、他校との統合や学科の再構成により、10校程度とする」こととしましたが、募集停止(1校)や総合学科への転換(2校)、他校との統合により、単独校1校、併置校11校の計12校となりました。

なお、茂原樟陽高校の農業特別専攻科については、社会状況の変化等を踏まえ、平成23年度末をもって廃止としました。

【千葉県教育振興基本計画】地域の産業を理解するためのキャリア教育の推進

高校生等を対象に、職業としての漁業や農業を体験するインターンシップを農業者、漁業者等と連携して行います。

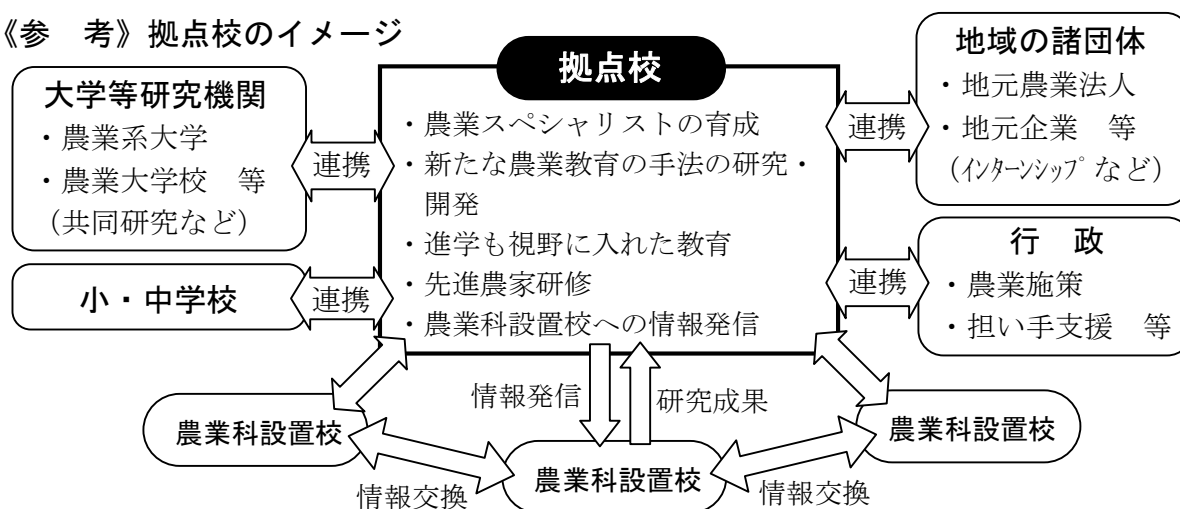
【具体計画の方向】

- 進学も視野に入れた教育の展開や、先進農家研修等による将来の農業スペシャリストの育成、新たな農業教育の手法に関する研究・開発等を円滑に推進するため、農業教育の拠点校を設置します。

拠点校と他の農業科設置校とのネットワークを構築し、研究・開発の成果を他校へ還元することにより、県全体の農業教育の底上げを図ります。

- 地域のニーズや地域性を踏まえた学校配置、学科の検討を行い、必要に応じて、わかりやすい学科名への変更などを含めた学科再構成等を行います。
- 担い手育成や6次産業化といった農業施策と整合した教育の推進に留意しながら、他校・他学科をはじめ、小・中学校や農業大学校等の教育機関、行政機関及び地域の諸団体等との連携を推進し、教育内容の充実を図ります。
- 農業と農業教育の理解を深めるため、各学校と一体となって、地域や小・中学校等との連携を軸に効果的な広報活動の展開を図ります。

《参 考》拠点校のイメージ



(2) 工業科

工業科は、専門教科「工業」の目標である、工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における工業の意義や役割を理解させるとともに、環境及びエネルギーに配慮しつつ、工業技術の諸問題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、工業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目指す学科です。

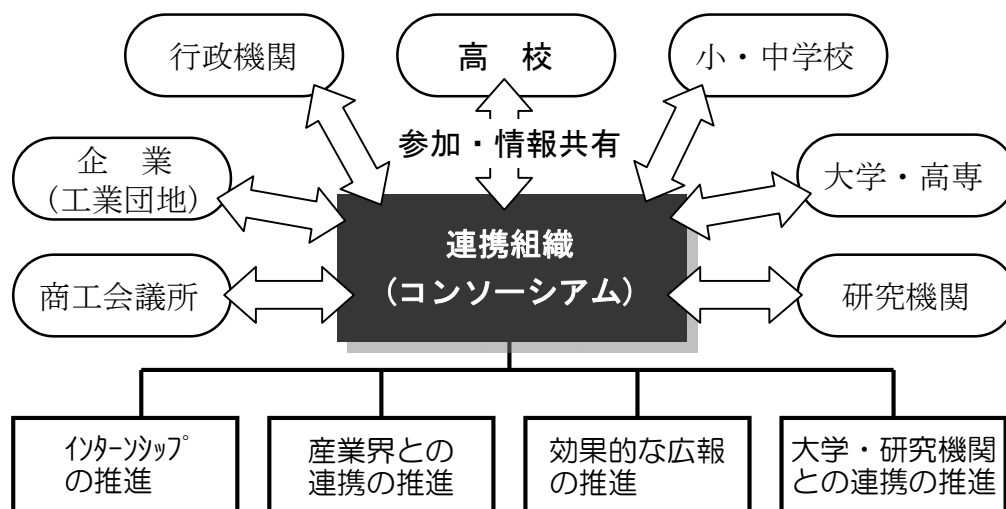
現行再編計画では、「工業科設置校は、単独校5校、併置校3校の計8校あるが、その全体数は現状を維持する」こととし、他校との統合により、単独校4校、併置校4校の計8校となりました。

【千葉県教育振興基本計画】地域の企業等との連携によるものづくり若手技術者の育成
企業、高等技術専門校、工業高校等が連携し、企業技術者等による実践的指導や生徒の企業実習、指導員・教員と企業との交流機会の創設等により、ものづくり企業の若手技能者・技術者を育成します。

【具体計画の方向】

- 進学を視野に入れた教育や、より一層の資格取得の充実を推進するとともに、工業教育の手法について、研究・開発を一層推進し、県全体の工業教育の底上げを図るため、工業教育の拠点校を設置します。
- 工業教育の質を高め、ものづくりの実践力を育成するため、拠点校を中心として、企業（工業団地）・大学・研究機関・現代産業科学館・地域・行政機関等との連携を一層推進する組織（コンソーシアム）を設置します。
その際、高等専門学校のような高度な学びの場の創設等についても検討します。
- 地域産業や産業振興施策との整合性を踏まえ、工業高校の配置やわかりやすい学科名への変更を含めた学科再構成等を実施し、工業教育の充実を図ります。
- 将来にわたって、ものづくりを担う人材を育成していくために、積極的かつ効果的な広報活動に取り組み、工業教育の裾野の拡大に努めます。

《参 考》連携組織（コンソーシアム）のイメージ



(3) 商業科

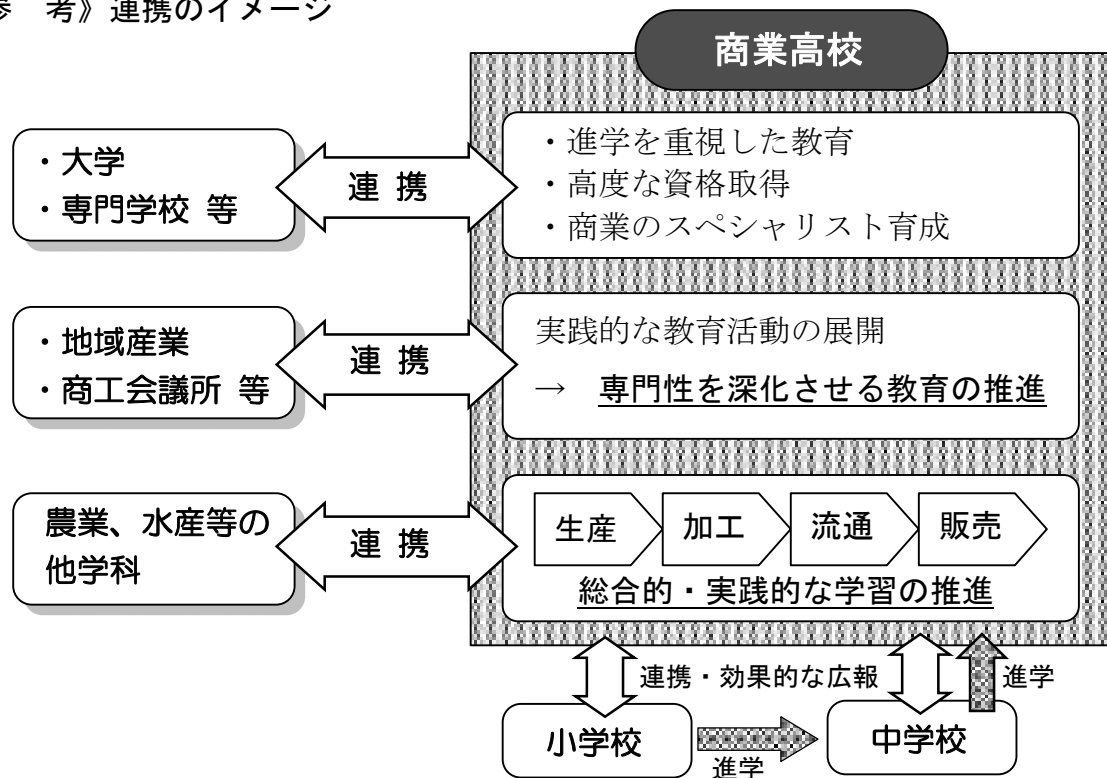
商業科は、専門教科「商業」の目標である、商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスの意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって行い、経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目指す学科です。

現行再編計画では、「商業科設置校は、単独校6校、併置校5校の計11校あり、統合や学科再構成を行うが、その全体数は現状を維持する」こととしましたが、総合学科への転換(1校)及び他校との統合により、単独校4校、併置校6校の計10校となりました。

【具体計画の方向】

- 大学や専門学校等との連携により、進学を重視した教育や高度な資格取得、商業のスペシャリスト育成等に対応したコースや科目等を設置します。
- 経済社会のグローバル化や情報通信技術（ICT）の急速な進展等に対応した教育内容の充実を図るとともに、わかりやすい学科名への変更などを含め、学科再構成を行います。
- 地域産業等との連携を図り、企業の持つ教育力を活用した実践的な教育活動の展開などにより、専門性を深化させる教育を推進します。
- 他学科との連携を積極的に実施し、お互いの専門性を生かし合うことで、生産から加工・流通・販売までの総合的・実践的な学習を推進します。
- 地域や小・中学校との連携により、効果的な広報活動の展開を図ります。

《参 考》連携のイメージ



(4) 水産科

水産科は、専門教科「水産」の目標である、水産や海洋の各分野における基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、水産業及び海洋関連産業の意義や役割を理解させるとともに、水産や海洋に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、持続的かつ安定的な水産業及び海洋関連産業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目指す学科です。

現行再編計画では、「水産科設置校は、単独校2校、併置校1校の計3校あるが、各校の地域性等を考慮しながら他校との統合や学科再構成により、2校程度とする」こととし、総合学科への転換(1校)及び他校との統合により、併置校2校となりました。

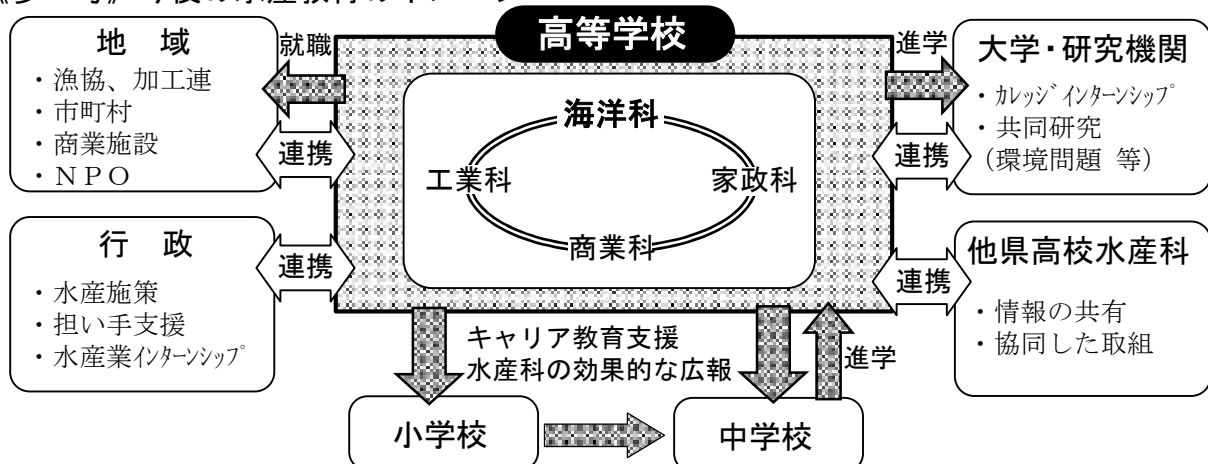
【千葉県教育振興基本計画】地域の産業を理解するためのキャリア教育の推進

高校生等を対象に、職業としての漁業や農業を体験するインターンシップを農業者、漁業者等と連携して行います。

【具体計画の方向】

- 本県水産業の実態（東京湾漁業等）を踏まえ、水産業及び海洋関連産業の発展を支える人材を育成するとともに、安定的な就業を支援するため、地元企業、市町村、地元漁業協同組合等による連携組織の充実を図ります。
- 社会や地域のニーズ、設置校の実態等を踏まえ、学科やコース、専攻科等の在り方について検討します。
- 大学・研究機関等との連携を推進し、海洋環境研究等、地域や時代のニーズに合った視点を取り入れ、進学も視野に入れた水産教育の推進を図ります。
- 担い手育成や経営の多角化など、行政施策と整合した教育の推進に留意し、諸団体との連携の下、流通・販売等にも対応した教育内容の充実を図ります。
- 地域や小・中学校等と連携し、積極的にキャリア教育を支援することを通して、水産科への理解を深めるとともに、実習船の活用など効果的な広報に取り組みます。また、他県からの生徒募集の可能性について検討します。

《参 考》今後の水産教育のイメージ



(5) 福祉科

福祉科は、専門教科「福祉」の目標である、社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的、体験的に習得させ、社会福祉の理念と意義を理解させるとともに、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決し、社会福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育てることを目指す学科です。

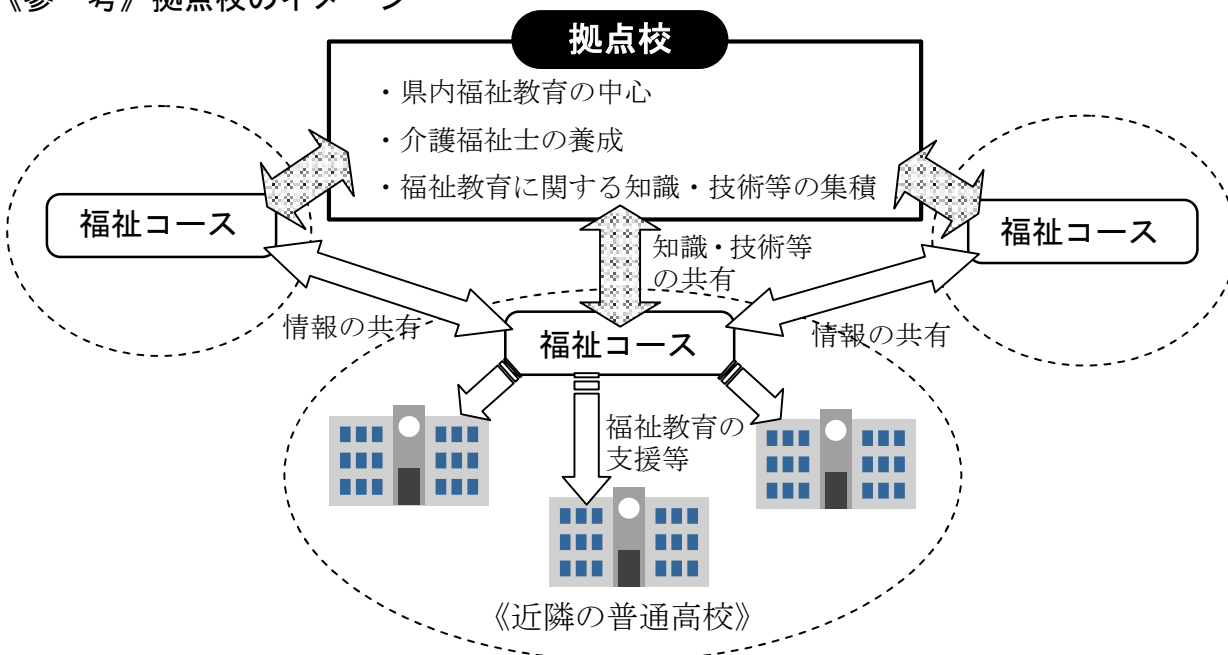
現行再編計画では、「福祉系の学科・科目の拡充を進める」こととし、松尾高校に福祉コース(H18)、勝浦若潮高校に生活福祉系列(H17)を設置しました。

なお、松戸向陽高校に福祉教養科が設置されています。

【具体計画の方向】

- 福祉教育の手法について研究を推進し、県全体の福祉教育のレベルアップを図るため、福祉教育の拠点校を設置します。
拠点校と福祉コースや看護科を有する学校とのネットワークを構築することにより、学校間の連携を強化し、地域や県全体の福祉教育の充実を図ります。
- 地域や時代のニーズ、地域バランス等を踏まえ、生徒の地元への就職や地域の活性化等を考慮し、福祉関係の系列（総合学科）やコースを5校程度に設置します。
- 福祉関係への就業を目指す生徒が、福祉現場の現状を理解し、課題意識を持って学ぶとともに、福祉の職に就き、定着できるよう、行政機関・社会福祉協議会・社会福祉施設と連携する仕組みを設けます。
- 福祉に関する専門的な知識・技術をより深めるため、大学や専門学校との連携を一層推進します。

《参 考》拠点校のイメージ



(6) その他の職業系専門学科（家庭科、看護科、情報科）

家庭科は、専門教科「家庭」の目標である、家庭の生活にかかわる産業に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生活産業の社会的な意義や役割を理解させるとともに、生活産業を取り巻く諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、生活の質の向上と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目指す学科です。

看護科は、専門教科「看護」の目標である、看護に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、看護の本質と社会的な意義を理解させるとともに、国民の健康の保持増進に寄与する能力と態度を育てることを目指す学科です。

また、情報科は、専門教科「情報」の目標である、情報の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における情報の意義や役割を理解させるとともに、情報社会の諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、情報産業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目指す学科です。

現行再編計画では、家庭科について、「家庭科はすべて他学科との併置で計10校あるが、学校や学科の統合により、5校程度とする」こととし、学科再構成により、現在5校に設置されています。

また、情報科の設置について、「コンピュータの構造、文書処理や表計算などの基本的な知識や利用技術だけでなく、例えば、美術や音楽などの創造的な表現力の要素も取り入れ、情報機器を最大限に活用した教育内容を持つ「情報科」を、2校程度に設置する」こととし、柏の葉高校に情報理数科(H19)、袖ヶ浦高校に情報コミュニケーション科(H23)を設置しました。

なお、看護科は、若葉看護高校と幕張総合高校との統合(H16)により、現在、幕張総合高校に設置されており、5年一貫教育実施のため、専攻科を設置(H17)しました。

【具体計画の方向】

- その他、既設の職業系専門学科については、学習ニーズや進路選択の多様化などに対応するため、教育内容の一層の充実を図るとともに、生徒の志願状況や既設校の実態等を踏まえ、必要に応じて、新たな学びの場を設けます。

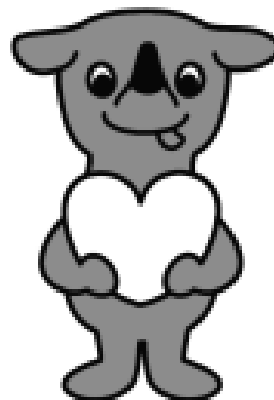
(7) 総合技術高校

総合技術高校は、複数の職業系専門学科を併置し、学科の枠を越えた学習も可能にすることで専門分野の学習に深みと幅を与え、生徒の興味・関心や学習希望・進路希望などの多様化に対応することを目的としています。

現行再編計画では、「学校や学科の統合により、例えば農業科と工業科など複数の学科を併置し、専門学科の枠を越えた学習も可能とする「総合技術高校」を2校程度設置する」こととし、茂原樟陽高校(H18)、館山総合高校(H20)を総合技術高校としました。

【具体計画の方向】

- 既設の総合技術高校については、生徒の興味・関心や学習希望・進路希望等の多様化に対応するため、併設学科の学習内容等を踏まえ、生産から加工・流通・販売に対応するなど、教育内容の一層の充実を図ります。



3 総合学科※

総合学科は、普通科目と専門科目を幅広く開設し、生徒が自らの興味・関心や進路希望に応じて、主体的に科目を選択しながら学習できる単位制の学科です。

柔軟な教育課程の編成、教育施設・設備の有効活用など、既存学科の特性を活かして、総合学科へ転換することにより教育の充実を図ることとし、既設校の再編により、4校に設置しました。

なお、現行再編計画では、「総合学科については、既設校の再編により、全県的なバランスを考慮しながら、各学区に1校程度を目標に、計9校程度設置する」こととし、その配置については、

ア 普通科の設置比率の高い学区では、一部の普通科高校を総合学科高校に転換する。

イ 普通科の設置比率の低い学区では、一部の専門高校を総合学科高校に転換する。

こととしていました。

【具体計画の方向】

- 多様な学習ニーズに対応できる総合学科のメリットを普通科の改編に活用し、普通科の転換により、総合学科を3～5校程度設置します。
- 新たな総合学科については、進学を重視する系列や幅広い将来設計にも対応できる系列など、多様なタイプの系列の設置について検討します。
- 既設の総合学科については、生徒・保護者及び地域のニーズ等を踏まえ、系列や選択科目の見直しなどを行うとともに、2学期制の趣旨を踏まえた単位の半期認定の実施など、教育内容の一層の充実を図ります。
- 総合学科の仕組みや魅力を、中学校の生徒や保護者、教員に積極的に広報します。

※ 総合学科

普通科及び専門学科と並ぶ第3の学科として、平成6年度から制度化された新たな学科です。

○ 高等学校学習指導要領

- (1) 「産業社会と人間」をすべての生徒に原則として入学年次に履修させる。
- (2) 単位制による課程とすることを原則とする。
- (3) 「産業社会と人間」及び専門教育に関する各教科・科目を合わせて25単位以上設ける。

《参 考》今後設置する総合学科のイメージ（設置系列）

生徒の多様な進路希望に対応できるよう、社会や時代のニーズ等を踏まえ、次のような系列を設置します。なお、系列とは、学べる学習内容を系統的に示しているものです。

- ・ **国際文化系列**：国際的な視野と高いコミュニケーション力を身につけ、語学・国際系大学等への進学を目指します。
- ・ **生活福祉系列**：社会福祉や介護福祉に関する基礎的な知識や技術を学び、福祉・看護系大学等への進学を目指します。
- ・ **情報科学系列**：情報処理やコンピュータ活用の知識・技能を身に付け、情報系大学等への進学を目指します。
- ・ **デザイン系列**：美術、デザインに関する専門的知識や技術等を習得し、芸術系大学等への進学を目指します。
- ・ **生産食品系列**：生産から加工・流通・販売までを総合的に学習し、農学系、食物系等への進学・就職を目指します。

4 社会のニーズに対応した教育

(1) 単位制高校

単位制高校は、学年の区分がなく、生徒が自らの興味・関心や進路希望等に応じて履修する科目を選択でき、修得単位数の合計が、卒業に必要な単位数を満たせば卒業できるシステムの高校です。

現行再編計画では、単位制高校について、「全日制高校については、総合学科だけではなく、普通科や一部の専門学科を含め、16校程度設置する。なお、定時制の課程及び通信制の課程は、原則として単位制とする」こととし、総合学科と国際高校を含めた全日制高校16校及び定時制の課程、通信制の課程に単位制を導入しました。

【具体計画の方向】

- 進路希望等に応じて履修する科目を選択できる単位制高校のメリットを生かし、一人一人の進学希望に応じた学習指導の充実を図るため、進学指導重点校*など2校程度に導入します。
- 生徒の多様なニーズへの弾力的な対応が可能なことから、多様な選択科目の拡大、ガイダンス機能の充実、2学期制の趣旨を踏まえた単位の半期認定の実施、キャリア教育・職業教育の充実、高大連携、企業との連携等を一層推進し、単位制高校の特性を活かした教育内容の充実を図ります。
- 単位制の良さや特徴を、中学校の生徒や保護者、教職員に積極的に広報します。

※ 進学指導重点校

組織的で計画的な進学指導を推進し、生徒一人一人の学力の向上を図り、生徒の目標達成を支援する教育活動を展開することを目的として指定する学校です。

平成23年度現在、指定校は、千葉東高校、船橋高校、東葛飾高校、佐倉高校、佐原高校、成東高校、長生高校、安房高校、木更津高校の9校です。

《参 考》単位制の特徴

	特 徴
修業年限	○3年以上
学 期	○2学期制が望ましい。(学期ごとの単位認定が可能、弾力的な時間割編成が可能)
入学(新入学)	○教育課程や時間割の工夫により年度途中(秋)からでも可能
進級・卒業	○修得した単位の累積が卒業に必要な単位数を満たせば、卒業が可能(進級という考えはない) ○秋卒業も可能(ただし、3年以上の在籍が必要)
教育課程	○開設されている科目から、興味・関心・適性・進路などに応じて科目を選択できる。
そ の 他	○未修得科目があっても、他の分野については先の学習を進められる。 ○異学年次の生徒と一緒に学習する場合があります、異年齢集団の中で、人間的な成長を図ることができる。

(2) 中高一貫教育校

中高一貫教育校は、従来の中学校と高校に加えて、生徒や保護者が6年間の一貫した教育課程や学習環境の下で学ぶ機会をも選択できるようにすることにより、中等教育の一層の多様化を推進する学校です。

現行再編計画では、「6年間一貫の中等教育学校を2校程度、市町村立中学校と接続した連携型一貫校を2校程度設置する。なお、設置に当たっては、既設の全日制高校を転換することを原則とする」こととし、関宿高校を野田市立（旧関宿町立）木間ヶ瀬・二川・関宿の3中学校との連携型中高一貫教育校(H16)、県立千葉中学校を設置し、千葉高校を併設型中高一貫教育校(H20)としました。

併設型中高一貫教育校については、既に前期分評価の中で評価を行いました。今後とも評価作業を継続し、成果や公立の中高一貫教育校としての在り方などについて検証してまいります。

【具体計画の方向】

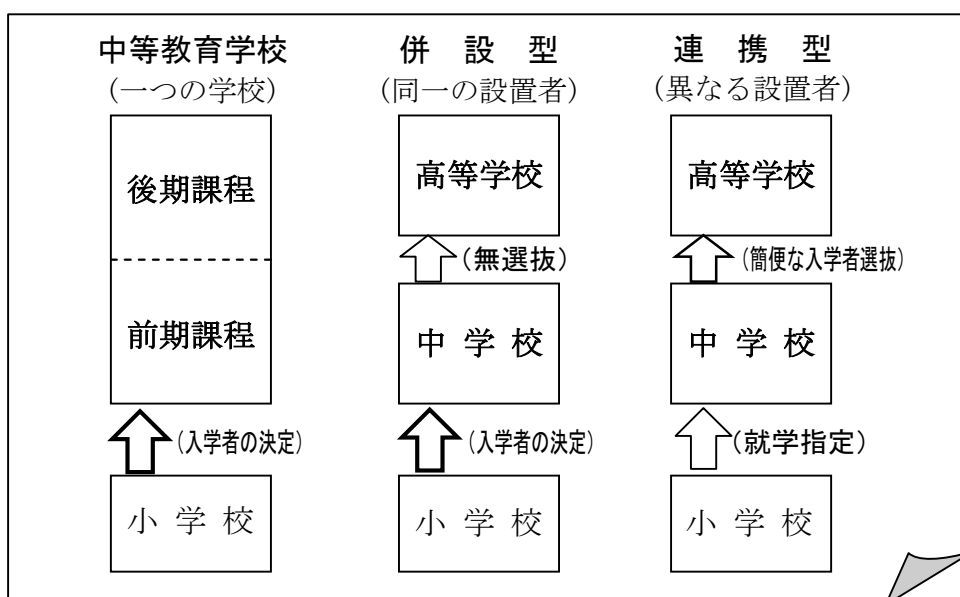
《連携型中高一貫教育校》

- 既設の連携型中高一貫教育校について、生徒・保護者のニーズや地域・連携中学校の実態、連携型の趣旨等を踏まえ、教育課程や地域交流など教育内容の一層の充実を図るとともに、新たな設置について検討します。

《併設型中高一貫教育校・中等教育学校》

- 生徒・保護者及び社会のニーズ、配置バランス、地域の実情などを踏まえ、2校程度設置します。

《参 考》中高一貫教育校の種類



(3) 観光・環境・防災に関する教育

現行再編計画では、新しい専門学科・類型について、「本県の豊かな自然を舞台とした、新たな専門教育を展開するために、必要に応じて観光や環境などが学べる、学科や類型などの設置を行う」こととし、千葉商業高校に観光系の科目(H16)、勝浦若潮高校に商業・観光系列(H17)、鶴舞桜が丘高校に環境系の科目(H17)を設置しました。

【千葉県教育振興基本計画】環境を守るために行動できるひとづくりの推進

子どもたちが、環境を守るための行動ができるよう、様々な環境学習の機会を設けます。また、学校への千葉県環境学習アドバイザーの派遣を行うとともに、環境研究センターと連携して環境保全に関する知識の普及と環境保全活動を推進します。

【具体計画の方向】

《観光》

- 千葉県の恵まれた観光資源（豊かな自然、歴史的遺産、国際空港、ゴルフ場、マリンスポーツ等）を有効活用し、観光についても学べる新たな系列（総合学科）やコース、科目等を設置します。
- 各専門教育との関連の中で、地域や産業の理解、地域振興の在り方などの観光教育を通して、地域への愛着や理解、人との接し方、観光客のもてなしの気持ちなどの知識・技能・態度を養います。

《環境》

- 環境教育を推進するため、環境についても学べる新たな系列（総合学科）やコース、科目等を設置します。
- 身近な問題をテーマとした学習を通して、環境や環境問題に対する興味・関心を高め、必要な知識・技能・態度を養います。
- 職業系専門学科においては、当該専門教育を活かした体験的な環境学習を行います。

《防災》

- 東日本大震災の経験を踏まえ、各学校の防災教育の充実を図るとともに、必要に応じて防災について学べる科目等を設置します。

(4) 地域連携アクティブスクール※

多様な生徒が高校へ進学しており、生徒それぞれの個性や進路志望に応じて、個々の生徒の能力を高め、社会に貢献できる人材を育成することが求められています。

また、厳しい経済状況や非正規雇用者の比率の拡大など社会が大きく変化し、子どもから大人へ、学校から社会への移行を支援することが以前にも増して求められています。

このような状況を踏まえ、多様な生徒を受け入れ、地域とともに生きる社会人を育成する、新たなタイプの学校(地域連携アクティブスクール)を設置することとしました。

【千葉県教育振興基本計画】地域連携アクティブスクールの設置

地域との協同により、社会とのつながりを重視して、一人一人の生徒に応じた「学び直し」や「実践的なキャリア教育」を行い、これまで十分に発揮しきれていなかった生徒の能力を引き出し、コミュニケーション能力や倫理観等を養い、地域と共に生きる自立した社会人の育成を目指す新しいタイプの学校の設置に向けた検討を進めます。

【具体計画の方向】

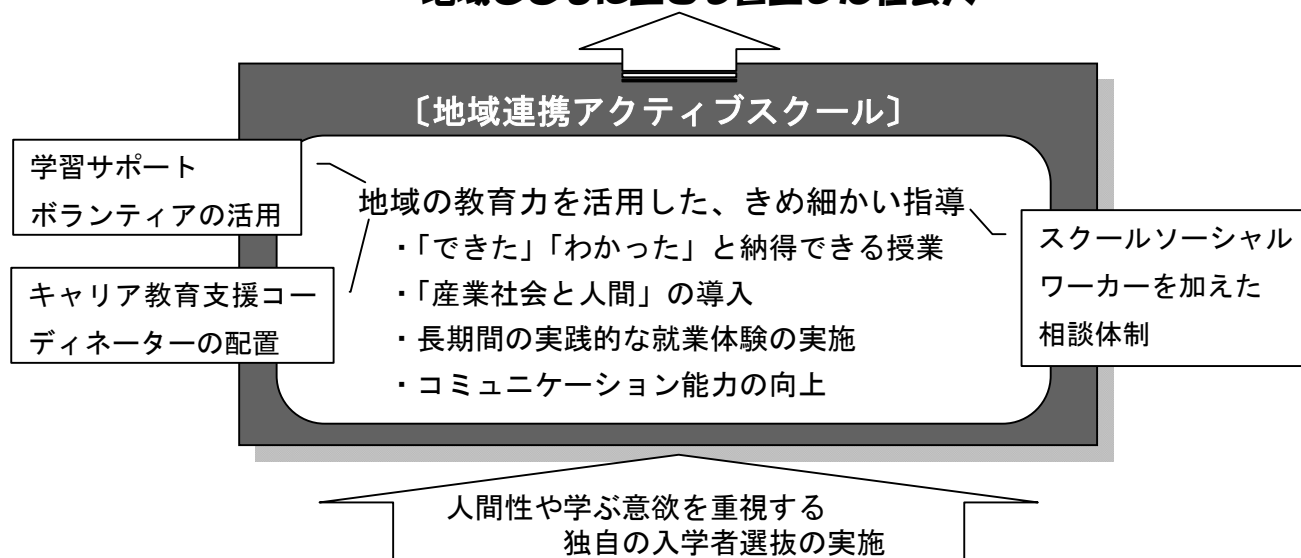
- 地域バランスや学校の状況を踏まえ、地域連携アクティブスクールを4校程度設置します。
- 学ぶ意欲に応える学習指導や、充実したキャリア教育など、新たなタイプの学校の理念を具現化する仕組みを整備します。
- 地域との多様な連携を進めながら、規範意識を高め、自立した社会人の育成に向けたきめ細かな指導を実践します。

※ 地域連携アクティブスクール

中学校で能力を発揮できなくても、高校では頑張ろうとする意欲をしっかりと受け止め、地元企業や大学と連携するなど地域の教育力を活用し、明るく活力ある高校生活が送れるようにするとともに、地域の期待に応える自立した社会人として社会に送り出していくシステムを備えた新たなタイプの学校です。

《参 考》「地域連携アクティブスクール」のイメージ

地域とともに生きる自立した社会人



中学校で能力を発揮できなくても、高校では頑張ろうとする意欲を持った生徒

(5) コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）は、保護者や地域住民が、合議制の機関である学校運営協議会を通じて、一定の権限と責任を持って学校運営に参画し、より良い教育の実現を目指すという、地域に開かれ、地域に支えられる学校づくりの仕組みであり、平成16年6月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により導入されました。

学校や地域の実情も十分に踏まえ、各教育委員会が、教育委員会規則で定めるところにより、所管する学校をコミュニティ・スクールに指定した場合に、当該学校で学校運営協議会を設置することができます。

このような状況を踏まえ、県立高校に設置されている「開かれた学校づくり委員会」を更に深化させ、地域住民や保護者等が、教育委員会や校長と責任を分かち合いながら学校運営に携わっていくことで、地域に開かれ、地域に支えられる千葉県ならではの学校づくりの実現を目指すこととしました。

【千葉県教育振興基本計画】 県立高等学校へのコミュニティ・スクールの導入の検討

保護者や地域住民、有識者などが、一定の権限と責任を持って学校運営に参画するコミュニティ・スクールの県立高等学校への導入について、国のモデル事業等を活用しながら、学校や地域の実情に応じて検討します。

【具体計画の方向】

- 学校や地域の実態を踏まえ、コミュニティ・スクールを設置します。
- 「学校運営協議会」を設置し、保護者・地域住民・有識者などの意見を学校運営に反映させ、地域に開かれた信頼される学校づくりを目指します。

《参 考》「コミュニティ・スクール」のイメージ

